

令和7年(2025年)佐久地域 県政おもなできごと

今年の総括として、佐久地域のおもなできごとをまとめました。

1月

浅間山大規模噴火を想定した火山防災訓練を実施(総務管理課)

浅間山広域避難計画(令和5年度策定)策定後、初めての浅間山大規模噴火を想定した火山防災訓練を佐久合同庁舎講堂で実施しました。訓練は状況付与型図上訓練で、浅間山噴火警戒レベル3の状態からスタートし、レベル4、レベル5と上がっていく想定の中、各機関が取るべき行動を検討・協議しました。20機関、約50名が参加(見学含む)。

参加者からは、「事前に準備すべき事項が明確になった」や「課題の共有や今後の調整事項が確認できた」などの意見が寄せられました。



2月

～農業生産における安全・安心の取組(GAP)広がる～国のGAPの取組コンクールでJA長野ハケ岳が農林水産大臣賞受賞(佐久農業農村支援センター)

農業生産の現場では、生産者の安全、食品の安全、環境保全(周辺環境への安全)を意識した生産の取組(GAP)が広がっています。長野県は、県内すべての農業生産者がGAPに取り組めるよう、わかりやすい基準とチェックシートを作成するなど支援をしています。

その中で、2月に国主催の「令和6年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール(GAP部門)」において、JA長野ハケ岳(南牧村)の取組が評価され、最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。



3月

県営林道田口十石峠線が33年の歳月をかけて全線開通(林務課)

佐久市田口地区を起点とし、佐久穂町大日向地区を終点とする全長約17kmの林道田口十石峠線が開通しました。

当林道は、昭和48年に佐久地域の市町村からの要望で、「佐久地域環状林道構想」の一環として開設が計画され、平成3年から国庫補助を活用した県営事業により開設に着手。佐久市、佐久穂町及び国有林より一部負担を頂きながら、着手より33年の期間を経て、令和7年3月に完成しました。

当林道の開通によりこの地域の森林整備が促進され、地域の活性化に資することが期待されます。



栄橋が国の登録有形文化財に登録(佐久建設事務所)

佐久穂町に所在する「栄橋」が、令和7年3月13日に国登録有形文化財に登録されました。

栄橋は、道路技師中島武考案の鉄筋コンクリート・ローゼ桁による日本独自、世界初の橋梁群のひとつで、放物線を描くアーチ桁や、くぼみを持たせた橋桁のデザインなどが優美であること、デザインの優れた県下最大級の石張橋灯付先頭型の親柱が4本とも現存していること、戦後の長野県下の橋梁に継続した影響を与えたことなどが評価されました。



4～9月

～育て！担い手～ 水田フナ養殖技術講習会の講師を担当(水産試験場佐久支場)

佐久市が主催する水田フナ養殖の生産拡大と技術の継承を目指した「水田フナ養殖技術講習会」で、水産試験場佐久支場の職員が講師を務めました。

講義は全7回行われ、そのうち3回、フナの養殖に係る一連の流れや飼育の基本的事項、オスとメスの見分け方のテクニックなどを指導しました。受講者は3名でしたが、熱心に質問を投げかけ、活発な意見交換が行われるなど、フナ養殖の新たな挑戦に向け希望に満ちた雰囲気包まれていました。



4月

佐久平駅・野辺山天文台が映画コナンの舞台に(商工観光課)

4月18日に公開された映画「劇場版名探偵コナン 隻眼の残像（フラッシュバック）」の中で、JR佐久平駅・野辺山宇宙電波観測所が舞台として登場しました。

佐久平駅では、作中にも登場した「幸せの鐘」やフォトスポットを設置したり、特別な構内アナウンスを放送するなどして、聖地巡礼に訪れたコナンファンをお迎えしました。

佐久台庁でも訪れた皆さんに楽しんでいただけるよう、ポスターを掲示しコナン一色となりました。



5月

川上村埋沢大橋の耐震補強工事が完了(農地整備課)

川上村埋沢大橋は、平成元年度に建設された農道橋で、農産物の運搬をはじめ地域の緊急輸送路として供用されてきましたが、建設から30年以上経過するなかで、橋梁の修繕と早期の耐震対策が求められていました。

令和2年度から県営農村地域防災減災事業川上地区で制振ダンパーや外部ケーブルの設置などの耐震補強工事を行い、令和7年5月に工事が完了しました。



写真：しゅん工写真(上空から撮影)

南牧野辺山地区の農道拡幅改良工事が一部完成(農地整備課)

南牧野辺山地区はレタス、はくさい等の高原野菜の産地で多くの農業機械が農道を利用しますが、農道の幅員が狭く、農業機械の大型化に伴い生じた作物輸送への支障が課題でした。

令和6年度から南牧村板橋・海ノ口内の農道1,494mの拡幅改修工事に着手し、令和7年5月に海ノ口側699mの拡幅改良が完了しました。

完了区間は4mの道路幅員が7mに拡幅されたことにより、大型農業機械同士によるすれ違い通行が可能となり、作物輸送環境が大きく改善されました。



写真:海ノ口拡幅完了区間(上空から撮影)

6月

佐久地区障がい者スポーツ大会を開催(佐久保健福祉事務所)

「佐久地区障がい者スポーツ大会」を、6月7日(土)に県立武道館(佐久市)で開催しました。

障がいの有無によって分け隔てられることなく、幅広い親睦や交流、相互理解の促進を図ることを目的として開催するもので、136名の選手の皆さんが、ボッチャとフライングディスクを楽しんだほか、ボッチャの体験コーナーにはお子さんの姿も見えるなど、会場には笑顔の輪が広がっていました。



7月

ツキノワグマ人身被害防止対策研修会を開催(林務課)

全国各地でクマの人身被害が相次ぐなか、業務で山林内に立ち入る方々を対象に、クマの生態や注意点などを学ぶ研修会を県内に先駆けて開催しました。

長野県クマ対策員の玉谷宏夫氏(たまたに ひろお・NPO法人ピッキオ所属)から「クマを正しく知って、正しく怖がる姿勢が大事」とお話がありました。「熊はぎ」や「熊棚」などの痕跡に気付くことや、「熊がいるかもしれない」と意識することが大切で、不意に遭遇した場合は、慌てずに落ち着いた行動をとることを促しました。

(地域振興局・野生鳥獣被害対策チーム主催)



8月

信州の伝統野菜「ひしの南蛮」採種指導会を開催(佐久農業農村支援センター)

信州の伝統野菜に認定されている「ひしの南蛮」について、生産者に採種の知識や技術の再認識をしていただき、安定的な生産をすることを目的に小諸市菱野地区で採種指導会を開催しました。

信州大学農学部松島教授を講師に、ひしの南蛮生産者等14名が採種や高温対策を学びました。

参加者から多くの質問が出され、生産者間でひしの南蛮の採種・栽培に共通の認識を持てた良い機会となりました。



9月

道の駅「八千穂高原」が開業1周年(佐久建設事務所)

道の駅「八千穂高原」が、令和7年9月27日に開業から1周年を迎え、年間で来場者79万人を突破し、連日賑わいを見せています。

開業1周年を記念して、佐久穂町の酒蔵「黒澤酒造」オリジナルグッズの販売、道の駅八千穂高原だけの“限定酒”の数量限定販売、プールの試食会、こども縁日など様々な企画が行われました。



芸術の秋、軽井沢で長野県伝統的工芸品『軽井沢彫り』をPR(商工観光課)

軽井沢町が産地となっている伝統的工芸品『軽井沢彫り』を、同町を訪れる国内外の多くの皆様に知って覚えていただくため、軽井沢・プリンスショッピングプラザ特設ブースにおいてPRイベントを実施しました。

また、南信州地域振興局と協力し同地域の伝統的工芸品である「阿島傘」や「飯田水引」の紹介並びに展示販売も実施しました。

当日は、多くの皆様に立ち止まっていただくとともに「軽井沢町にも伝統的工芸品があるんだね」と声をかけていただきました。



佐久地域日本酒振興プロジェクトの実施(商工観光課)

日本酒に興味・関心を持ってもらうために、大学生（ShinXia※）と連携し、佐久地域日本酒振興プロジェクトを実施しました。

日本酒について学ぶとともに、試飲や小売店・酒蔵見学を通じ、日本酒業界が抱える課題を認識してもらいました。プロジェクト終盤では、「日本酒に興味・関心を持ってもらうにはどうしたらよいか」をテーマにした企画案を作成・発表しました。

※ShinXia（シンシア）：文部科学省の「地域活性化人材育成事業（SPARC）」に採択された、長野地域（信州大学・長野大学・佐久大学）で展開する教育プログラムのこと



10月

佐久地域合同移住相談会を開催(企画振興課)

10月25日に東京にて、佐久地域定住自立圏と合同で「佐久地域」合同移住相談会を開催しました。首都圏を中心とした子育て世代の方々の移住促進やつながり人口の拡大を目的に、市町村のほか、特色ある教育を実践する学校、ハローワークも参加して、個別相談やセミナーを実施しました。

当日は24組46名という大勢の方が来場され、佐久地域への移住に対する関心の高さを感じました。



「2025環境フェアin佐久」・「2025環境フェアin小諸」を開催(環境・廃棄物対策課)

10月4日、5日に開催の「そっこん！さく市」及び10月5日に開催の「第31回信州小諸ふーどまつり」に「2025環境フェア」としてブースを出展し、工作教室などの体験イベントや環境関連の展示を行いました。

当日は好天に恵まれ、豊かな環境づくり佐久地域会議のエコバッグづくりのブースでは、2日間で約600人の皆様にご来場いただきました。

また、オリジナルエコバッグや食品ロスに関する啓発物についても多くの方に興味を持っていただきました。



佐久穂中学校と川上中学校で防災学習を開催(佐久建設事務所)

県建設業協会とタイアップして、佐久穂中学校と川上中学校で防災学習を行いました。

AR技術を活用した浸水体験や、土砂災害対策・流域治水の模型実験を通して、生徒の皆さんに防災の取組を学んでいただきました。



11月

県税功労者知事感謝状の伝達(東信県税事務所)

「税を考える週間」にあわせて、長野県の税務行政に多大なるご協力をいただいた方を表彰し、知事感謝状の伝達式を行いました。

授賞者 井出 勝人 様 (関東信越税理士会佐久支部 元支部長 等)
零田 恵子 様 (一般社団法人 佐久法人会 理事 等)
荒井 理一 様 (佐久税務署管内青色申告会 会長)



しなの鉄道観光列車「ろくもん」で『秋のほろ酔い列車』を運行(商工観光課)

しなの鉄道で運行している観光列車「ろくもん」を貸し切り、『秋のほろ酔い列車』を運行しました。県内外からご参加いただいた43名のお客様が、列車内で地元の食材を使用したお弁当を食べながら、佐久地域にある醸造所の日本酒2種とワイン2種、ウィスキー2種の飲み比べをするなど、佐久地域の特産品を堪能いただきました。

また、小諸駅近くの懐古園ではガイド付きの散策を行い、色とりどりの紅葉の鑑賞や同日開催の侍フォトコンテストによる甲冑隊との写真撮影を楽しんでいただきました。



災害復旧及び災害防止事業功労者表彰の受賞(佐久建設事務所)

災害復旧促進全国大会において、常和復興まちづくり協議会と入沢災害・復興協議会が、全国防災協議会から災害復旧及び災害防止事業のために尽力されたとして、全国防災協会より表彰されました。

両協議会は、令和元年東日本台風(台風19号)災害で被災した河川護岸の復旧などの改良復旧事業の実施にあたり、早期の復旧・復興に多大な貢献をしていただきました。

また、復旧状況や活動内容をまとめた広報誌の発行や地元区と連携した防災・減災に関する活動など地域住民の防災意識の向上に寄与されました。



12月

「佐久地域で輝く企業・若者紹介ブック」を発行(企画振興課)

多くの若者が就職をきっかけに長野県を離れてしまう現状を変えるため、佐久地域で働く魅力を伝える「佐久地域で輝く企業・若者紹介ブック」を制作しました。

「都会じゃなくても輝ける」をテーマに、地域で活躍する企業と、そこで輝く若者たちのリアルな声を詰め込み、佐久で働くという選択肢を提案しています。

国や県が推進する「誰もが働きやすい職場環境づくり」に取り組む企業情報や長野県のシェーカツ支援策なども網羅。佐久地域での就職を考える際に役立つ、充実した内容となっています。

令和8年の「旧成人式」での配布などを予定しています。



佐久地域の事業が「地域発 元気づくり大賞」を受賞(企画振興課)

令和6年度「地域発 元気づくり支援金」で実施された「JR小海線で行く車いすの旅事業」（実施団体：小海線とふるさとを愛する会（小海町））が県内で特に優れた事業に贈られる「地域発 元気づくり大賞」を受賞し、表彰を行いました。

このほか、地域で優れた取組2事業に「局長表彰」を授与しました。

事業名	実施主体	事業の概要	表彰区分
JR小海線で行く車いすの旅事業	小海線とふるさとを愛する会（小海町）	地域住民の足である小海線を活用したユニバーサル社会の実現に向けた取組みとして、地元の学生にボランティア参加を募り、車いす利用者を対象にした列車の貸切イベントを実施し、小海線の車いす利用者の促進を図った。	大賞・知事表彰
「つくろう！“舞台芸術の日”」こども実行委員会事業	佐久地域“舞台芸術の日”運営委員会（佐久市）	「子ども実行委員会」を組織してカンパニーデラシネラによる公演（はだかの王様）やワークショップを実施し、子どもとともにつくる本物の芸術鑑賞の機会の創出を図った。	局長表彰
小諸マチナカ回遊プロジェクト「こもろ浪漫」	小諸マチナカ回遊プロジェクト実行委員会（小諸市）	旧北国街道沿いの寺社をアートやデザインといったモダンな視点で発信し、小諸市街地の経済活性化や歴史ある寺社・町家の維持管理意識を高めるきっかけとした。	局長表彰



佐久地区賛助会とシニア大学佐久学部が合同活動作品発表会を開催(佐久保健福祉事務所)

12月9日（火）に長野県長寿社会開発センター佐久地区賛助会とシニア大学佐久学部が合同活動作品発表会を佐久合同庁舎講堂で行いました。

令和6年度までは賛助会による単独開催でしたが、今年度は初めての試みとして、賛助会員と佐久学部生との交流や、シニア大学の趣味講座で作製した作品発表も兼ねて合同開催となり、参加総数206名の盛大な発表会となりました。

作品展示は書道／篆刻／写真／絵手紙／俳句など170作品以上、ステージ発表は詩吟／銭太鼓／コカリナの3グループが日頃からの成果を披露して、賑やかで楽しい催しとなりました。



通年

持続可能な葉洋菜産地に向けた減化学肥料栽培の実証実験(佐久農業農村支援センター)

佐久地域は、夏秋期の葉洋菜を中心に全国屈指の野菜産地ですが、近年肥料の過剰施用が散見されるほか、資材費の高騰による生産コストの増加が問題となっていることから、リーフレタス及びキャベツについて、土壌診断に基づいてリン酸肥料を減らす試験を行ったところ、リン酸が過剰なほ場で肥料を施用せずに栽培した場合でも、一般的な栽培方法と同等の収穫量、品質で収穫できました。

今後は試験結果を生産者や農業法人に周知を図り、低コストで環境にやさしい野菜生産に向けて取り組みます。



“放課後けんこう倶楽部”を開催(佐久保健福祉事務所)

シニア大学佐久学部の協力のもと、シニア大学終了後の「放課後」時間を利用し、フレイル予防を中心とした健康づくり講座を開催しました。

1学年、2学年合わせて全11回の講座では、理学療法士、ヨガインストラクター、介護予防に取り組むボランティア団体など、多岐にわたる講師を招き、参加者の健康意識向上を図りました。



動物愛護センター ～ハローアニマル～ 開設25周年(動物愛護センター)

動物愛護センター「ハローアニマル」は、平成12年(2000年)4月の開設以来、動物愛護の普及啓発、動物の持つチカラによる人の支援に取り組み、今年25周年を迎えました。

皆様に支えられて四半世紀を迎えられたことを記念し、記念イベントを開催しました。



記念事業項目	事業内容
開設25周年記念公開座談会	生きづらさを感じている子どもや若者を、民間・行政、それぞれの立場からサポートしている8名の皆様をパネラーとしてお迎えし、10月12日(日)に公開座談会を開催しました。
ポイントラリー25	1回の来所につき5ポイント×5回来所＝25ポイント達成で、ご自身が飼っている動物の写真を使ったオリジナル缶バッジなど素敵なプレゼントを差し上げています。(令和8年3月31日まで)
ハローアニマルテーマソングの作成	25周年を機にハローアニマルテーマソングを長野県小諸高等学校音楽科の生徒さんに制作いただき、令和8年1月にお披露目の予定です。
動物絵画展	来館者の皆さんが描いてくれた動物の絵画を、展示しています。(令和8年3月31日まで)
記念誌の刊行	公開座談会の内容を中心に、研究実績や昨年度作成した「ペット防災手帳・健康手帳」を含むペットの災害対策に関する情報等を掲載して、令和8年3月に刊行予定です。



佐久地域振興局 総務管理課

担当 櫻井、手島

電話 0267-63-3131 (直通)

0267-63-3111 (代表) 内線213

FAX 0267-63-3105

E-mail sakuchi-somu@pref.nagano.lg.jp